



山下公園

横浜駅で乗りかえた根岸線を関内駅で降りて神奈川県庁まで歩いて行く間に、いろいろな記念碑を見ることができます。最も近道をとっても六つの石碑が見られます。その内の二つが関東大地震と関係があります。横浜地方裁判所の慰霊碑（観測日より、1号、1977）と横浜公園の石碑です。

今回は、県庁からさらに足をのばして、横浜港の大棧橋の見える山下公園に行ってみましょう。外国航路の貨物船の荷上げや、いそがしそうに行きかうタグボートを見るのは、ここでのたのしみです。山下公園は大棧橋と山下埠頭の間の長さ約1000m、面積7万4121平方メートルの日本で最も古い臨海公園です。この公園は関東大地震の復興事業の一環として計画されました。大正14年から、地震でくずれたレンガや焼土などを処理するために海岸が埋め立てられ、整地されてこの山下公園が作られたのです。

昭和2年に開園しましたが、芝生園路などの施設もとのって竣工したのは昭和5年でした。昭和10年には、この山下公園で関東大地震の復興博覧会が開催されました。ポートだまりにクジラを放し養いにしたり、「シャム館」と云う珍しい建物に人気があったと云うことです。現在、公園内の大棧橋よりも、石造りの小さなインド風の建物がたてられています。これは博覧会後の昭和12年在日インド人協会によって建てられた「インド水塔」で、



人気の高かった「シャム館」に似ています。建物の一角に次のように刻まれています。

The Drinking Fountain
Presented to the City of Yokohama
In Memory of
Our Countrymen
Lost in Earthquake, September 1, 1923
The Indian Community

1923年9月1日の地震で
なくなった我が同胞の
ことを長く記憶にとどめる
ために 飲用噴泉が横浜市
に贈られました。

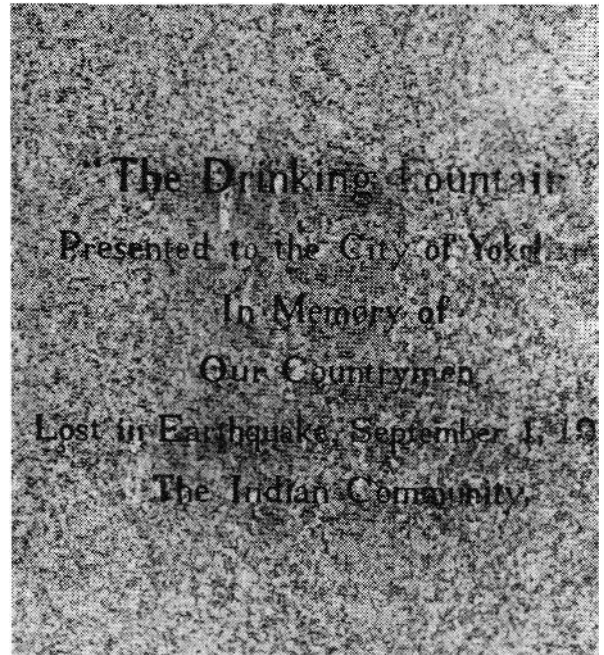
インド人協会
(平野訳)

インド人協会の何人の方々も関東大地震でなくなったのでしょうか。この建物は地震でなくなった方々を長く記憶にとどめるために山下公園に贈られた飲用噴泉でした。

関東大震災の瓦礫でできた山下公園のこのインド水塔は、大変に良い記念碑だと思います。しかし今では噴泉もこわれ、この記念碑も時とともに風化しているように思えます。関東大震災からの復興には諸外国からたくさんの暖かい援助がありました。このことこそ私達は長く記憶にとどめておく必要があるのでしょうか。(平野富雄)



←横浜公園の石碑。「……大正十二年九月大震災の際本市の大半猛火に蔽はるるや多数の市民は縁陰池辺に避難して危くも九死に一生を得たり……」と刻まれています。



↑塔の一角に刻まれた碑文

←インド水塔——飲用噴泉。今では噴泉もこわれたまま放置されています。

↓産業貿易センタービル10階の東天紅（横浜店）から見た山下公園とインド水塔

